

地域在住のシニアを対象とした「多様な働き方」セミナー

『自分らしく地域で活動する』開催に関する報告

(山内稔生／公益財団法人 新宿区勤労者・仕事支援センター)

令和4年12月15日(木)、新宿区の外郭三団体が協力して、標記のセミナーを開催した。主催・会場は(公財)新宿区勤労者・仕事支援センター(以下支援センター)。協力団体は(社福)新宿区社会福祉協議会、(公社)新宿区シルバー人材センター。新宿区等から情報提供を受けた。

私の職場である支援センターでは、シニアの無料職業紹介所(アクティブシニア就業支援センター)を開設し、シニア求職者とシニア採用の意欲を持つ企業や団体等のマッチング業務を行っている。

経済的な理由の他、健康寿命の延伸を念頭に就業しているシニアは少なくないが、加齢による心身機能の低下、雇い止め規定等、環境の変化により雇用による就業が徐々に難しくなり、応募できる求人が見つからなくなった時点でセンター利用が終了となるケースが目立つようになっている。次の活動場所が見つからず、自宅で時間を過ごすうちに健康状態を崩す方が一定数おり、これは支援センターにおける大きな課題だ。

そうした状況へのアプローチとして、この度のセミナーでは「だれもが安心して暮らせる新宿型コミュニティの実現」という、老年学的にも重要だと思われるテーマに着目。「仕事＝雇用」という概念から視野を広げ、さまざまな活動で地域に役立ち社会貢献することが、新たな人生設計や生きがいの獲得につながることを伝えるセミナーとした。老年学で学んだプロダクティブ・エイジングの重要性を伝える一助になったのではないだろうか。

構成としては、地域ボランティア活動の現状や現場の声、車いす体験を通じて、現場を実感してもらえるよう工夫した。

特にシルバー人材センター現役会員の、「自分らしいシニアライフの実現を考え、定年後に就職活動・再就職を繰り返すうちに自然に活動の軸足が地域にシフトしていった」という体験談は非常に好評で、高齢者の活動の場において、地域を中心に考えることがいかに重要か改めて気づかされた。

来年度は外部会場を使用、幅広く関係機関に連携を呼びかける等、大幅に規模を拡大して、より多彩な情報を発信したいと考えている。